



わたしの青少年赤十字

詩・100文字提案作品集



はじめに

二〇二二年は、青少年赤十字創設一〇〇周年です。青少年赤十字に加盟している学校では、子どもたちがより積極的に青少年赤十字活動を推進することによって、人間尊重の精神を育み、自らが豊かな人間性の醸成を図ってほしいと願っています。それはまさに、一〇〇周年のスローガン「未来のあなたへ、やさしさを」の願いに重なり、つくり、つなげて、つづける日々の営みによってこそ可能となるものです。

福島県支部では、今年度も、子どもたちが実践していること、思っていることを一〇〇文字程度に表現した「詩・一〇〇文字提案作品」を募集いたしました。

多数の優秀な作品の中から「日本赤十字社福島県支部長賞」「青少年赤十字福島県指導者協議会長賞」「福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞」を特別賞として選び、以下、「優秀賞」「佳作」「入選」を選定させていただきました。また、受賞した作品が多数の学校には「学校賞」を、五年連続で応募された学校には「学校奨励賞」を授与させていただきました。

これらの受賞作品をまとめ、本冊子を刊行することができましたことに深く感謝いたします。「人道」の精神のもと、子どもたちが未来に大きな夢をもち、その実現に向けてみずみずしい感性を働かせながら、よりよく生ようとする姿を感じ取っていただければ幸いです。

募集作品

□詩（いのちの詩・愛の詩）

人間のいのちはかけがえないもの。

そのいのちを守るために、自分や周りの人、生きものを大切にしなければなりません。そんなみなさんの素直な願いや感動を、そして未来に向けての夢・希望をぜひ詩に託して表現してほしいと願い、作品を募集しました。

□わたしの一〇〇文字提案

「気づき、考え、実行したこと、しようとしたこと」を次のテーマから選んで、自分の考えを端的に表現した作品を募集しました。

「わたしにできるボランティア」

「わたしのふるさと」

「わたしが感動したことはやできごと」

はじめに・募集作品

目次

特別賞及び学校賞・学校奨励賞

特別賞受賞者・学校賞・

学校奨励賞受賞校……………4

日本赤十字社福島県支部長賞…5

青少年赤十字福島県

指導者協議会長賞……………9

福島県青少年赤十字

賛助奉仕団委員長賞…………10

詩「いのちの詩・愛の詩」

優秀賞……………12

佳作……………15

入選……………22

一〇〇文字提案

「わたしにできるボランティア」

優秀賞……………24

佳作……………27

入選……………35

一〇〇文字提案

「わたしのふるさと」

優秀賞……………38

佳作……………41

入選……………49

一〇〇文字提案

「わたしが感動したことばや できごと」

優秀賞……………52

佳作……………56

入選……………62

作品応募校……………63

年度別応募状況・令和四年度

テーマ別応募作品数……………64

作品審査を終えて……………65

審査にご協力いただいた皆様…67

〔表紙〕

日本赤十字社東京都支部

石田 遊星

特別賞受賞作品



日本赤十字社 福島県支部長賞

「いのちの詩・愛の詩」

桑折町立睦合小学校

六年 浅野 蓮心

「わたしにできるボランティア」

玉川村立玉川第一小学校

六年 溝井 りお

「わたしのふるさと」

喜多方市立駒形小学校

一年 仁國 想大

「わたしが感動したことばやでぎごと」

福島市立福島第一小学校

五年 小野寺由真

青少年赤十字福島県指導者
協議会長賞

「わたしが感動したことばやでぎごと」

二本松市立塩沢小学校

六年 伊藤 璃空

福島県青少年赤十字賛助
奉仕団委員長賞

「わたしのふるさと」

南相馬市立鹿島中学校

三年 西田 栞皐

学校賞

福島市立福島第一小学校

二本松市立二本松北小学校

郡山市立富田東小学校

白河市立東北中学校

福島県立白河実業高等学校

学校奨励賞

郡山市立富田東小学校

平田村立蓬田小学校

相馬市立日立木小学校

日本赤十字社 福島県支部長賞

「いのちの詩・愛の詩」

桑折町立睦合小学校 六年 浅野 蓮心

八月六日、広島に行った。

たくさんの人が平和記念式典に参加し、祈りをささげた。私も

冥福を祈った。戦争のない平和な世界になってほしい。

世界中の人の命を大切にしてほしい。

あたりに平和の鐘が鳴りひびいた。

「わたしにできるボランティア」

玉川村立玉川第一小学校 六年 溝井 りお

家族でゴミ拾い活動に参加した。終わってみると、ゴミ袋はずっしり重かった。けれど、私の心は反対で、スツキリ軽やかだった。自分でも意外だった。

これからは、誰かが拾うだろうではなく、私が、自分が拾いたい。

「わたしのふるさと」

喜多方市立駒形小学校 一年 仁國 想大

ふるさとってなについておじいちゃんにきいてみた

ただいまとかえられるばしょといていた

ぼくはなんだかこころがぽかぽかした

「わたしが感動したことばやできごと」

福島市立福島第一小学校 五年 小野寺由真

私のおじいちゃんは、九十さいです。

今度目の手術を受けることになりました。その理由が「孫の顔をずっと見ていたいから」だそうです。私はその言葉でどれだけ愛されているか分かり感動しました。

青少年赤十字福島県指導者協議会長賞

「わたしが感動したことばやできごと」

二本松市立塩沢小学校 六年 伊藤 璃空

ぼくはのびのび学級に通っています。交流の友達とは、あまり仲よくできない感じです。

でもそれは、ぼくが緊張してただけで、同級生はやさしくて仲よくしてくれていました。かべを作っていたのは、ぼくでした。

福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞

「わたしのふるさと」

南相馬市立鹿島中学校 三年 西田 栞皐

三年ぶりに野馬追が帰ってきた。青空の下、颯爽と駆ける馬。
風になびく旗。すごくかつこよかった。夏の風物詩を久しぶり
に味わった。海、川、山、たくさんの自然であふれる南相馬市。
ずっとずっと大好きなふるさと。

詩
「いのちの詩・愛の詩」



「いのちの詩・
愛の詩」

優秀賞

郡山市立富田東小学校

四年 菅野 紗希

須賀川市立柏城小学校

四年 荒川 愛斗

相馬市立飯豊小学校

三年 杉本琥太郎



「いのちの詩・愛の詩」優秀賞

郡山市立富田東小学校 四年 菅野 紗希

やさしい言葉を使うと
幸せ色につつまれる
ひどい言葉を使うと
悲しい色につつまれる
楽しい言葉を使うと
明るい色につつまれる
言葉の力ってすごい
わたしは言葉の力をかりて
まわりをきれいな色でつつんでいきたい

須賀川市立柏城小学校 四年 荒川 愛斗

おじいちゃんは病気になってばくのことをわすれた。
おじいちゃん是人にやさしく、
かんしゃの心をわすれずにと教えてくれた。
歩く時手をかしてあげたら、ありがとうと言った。
昔のおじいちゃんに会えてうれしかった。

相馬市立飯豊小学校 三年 杉本琥太郎

じいじ、

そこにいる？

ロウソクがゆらゆら

じいじ、

天国は楽しい？

ロウソクがゆらゆら

じいじ、

ぼくは今日も

学校に行ってくるよ。

ロウソクが大きく

ゆらゆらゆら

今日もぼくは、

元気に

生きています。



「いのちの詩・
愛の詩」

佳
作

福島市立福島第一小学校

二年 菅野 祥加

福島市立福島第三小学校

六年 厚海 来実

二本松市立二本松北小学校

一年 佐々木親道

郡山市立薫小学校

四年 龍崎 大飛

郡山市立富田東小学校

三年 遠藤ひなた

四年 遠藤 心優

須賀川市立柏城小学校

四年 室井 瞳衣

鏡石町立第一小学校

五年 石森 星太

玉川村立玉川第一小学校

二年 小林 凌功

喜多方市立駒形小学校

二年 平塚 優奈

相馬市立飯豊小学校

二年 紺野 咲楽

四年 野沢 怜央

相馬市立日立木小学校

六年 阿部 恵佑

いわき市立高坂小学校

六年 大堀 斗聖

須賀川市立第三中学校

一年 梅宮 武琉

二年 佐藤 滯

白河市立東北中学校

一年 本間 楓香

二年 大谷 瑠花

福島県立白河実業高等学校

二年 高野 桃花

三年 薄井 慎吾



『いのちの詩・愛の詩』佳作

福島市立福島第一小学校 二年 菅野 祥加

大じじと大ばば、何でそんなに元気なの。大じじはごはんを
いっぱいたべるからだって。大ばばは大じじのお世話をしてい
るからだって。じゃあ、わたしは二人が百さいまで楽しくくら
せるように、たくさんお話をするね。

二本松市立二本松北小学校 一年 佐々木親道

いのちはだいじ
こころもだいじ
じぶんもだいじ
ともだちもだいじ
かぞくもだいじ
みずもだいじ
くうきもだいじ
つちもだいじ
ぼくのまわりは
だいじがいっぱい

福島市立福島第三小学校 六年 厚海 来実

ひらけごま
こころのとびら
ひらけごま
こせいのはな
ひらけごま
ゆうじょうのしんめ
ひらけごま
いのちのけっしょう
ひらけごま
きみのえがお
ひらけごま

郡山市立薫小学校 四年 龍崎 大飛

「ありがとう」はね、
まほうの言葉なんだよ。
「ありがとう」って言うと、
言われた人が
やさしくわらう。
「ありがとう」って言われると、
心はずむ。
ぼくは言うよ。
どんなに小さなことでも
心から「ありがとう」

郡山市立富田東小学校 三年 遠藤ひなた

お姉ちゃんと歩く通学路は、今年がさいご。
晴れの日も雨の日も雪の日も、ケンカをした日もいっしょに歩いた。
足あとがいっぱいだね。
さみしいけど、来年からは一人でもがんばるね。
お姉ちゃん、見てて、やくそく。

郡山市立富田東小学校 四年 遠藤 心優

一つだけの命を、大事にしなくてはいけない。
わたしの父は、生きたくても、ガンで二十五才で天国にいつてしまった。
その分、わたしが病氣にも負けず元気で楽しく、長生きします。
わたしを見ていてね。

須賀川市立柏城小学校 四年 室井 瞳衣

朝のおはよう。
こまっている時大丈夫。
何かした時ありがとう。
その一言でうれしくて
温かい気持ちになれる。
相手の気持ちを考えられるやさしい人がたくさんふえたら…
もっといい世の中になると思う。

鏡石町立第一小学校 五年 石森 星太

喜多方市立駒形小学校 二年 平塚 優奈

僕が病気になった時、免疫グロブリンで治療を受けました。
免疫グロブリンとは、健康な人の協力による献血血液から作られた薬です。

そのお陰で僕は今元気に過ごしています。
献血に協力してくれた方々に感謝しています。

「ただいま」

と言うわたしに

「おかえり」

と言ってくれる

じいちゃん

いつものばしょに

いないけれど

そのばしょを見ると

じいちゃんの

えがおが思いうかぶ

玉川村立玉川第一小学校 二年 小林 凌功

相馬市立飯豊小学校 二年 紺野 咲楽

きれいだね

きれいな花を見ると

なんだか心がおちつく

元気がない花を見ると

かなしくなる

みちばたでがんばってさく花を見つけたり

水をあげたりするとき

「きれいだね。」

と声をかけるんだ

じいちゃんがしんじやうみたい

おみまいにはいけないから

パパがつないだテレビでんわ

さいごに言わなきゃ

なみだをふいたらじいちゃんのえがお

わたしもえがおで

「ありがとう」

相馬市立飯豊小学校 四年 野沢 怜央

ぼくんちは四人兄弟。
ぼくが一番上のお兄ちゃん。
小さい妹とケンカをしても
お母さんは「お兄ちゃんなんだから。」とは言わない。
ちゃんと話を聞いてくれる。
だからぼくはお兄ちゃんをがんばれるんだ。

いわき市立高坂小学校 六年 大堀 斗聖

相馬市立日立木小学校 六年 阿部 恵佑

震災時、僕は六ヶ月、兄は六歳。
祖父母が保育園に迎えに来た。
兄が保育士の母にママも帰ろうと言った。
母は迎えを待たくさんの子がいるので
祖父母に僕達をお願いしますと言ったことを
大きくなってから聞いた。
母の言葉や姿を誇りに思う。

言葉には一つ一つに
重みがある
心をきずつける
悪口は
見えない刃物です
ほめことばを
自然と口に出すのは
心のやさしさです
わるぐちを
自然と口に出すのは
心がよごれている
しょうこです

須賀川市立第三中学校 一年 梅宮 武琉

母は、僕の誕生日の度に伝えてくれる。
「産まれてきてくれてありがとう」と。
僕はその言葉にどれだけ支えられているか。
いつか僕も母に伝えたい。
「産んでくれてありがとう」と。

白河市立東北中学校 一年 本間 楓香

私の誕生日に大好きな祖母はいなくなった
苦しい悲しい誕生日
泣きながら思い出す
毎日笑顔だった祖母が大好きだ
だったら私も恩返し
私が笑えば祖母も笑う
笑顔の大切さを教えてくれた私の誕生日

須賀川市立第三中学校 二年 佐藤 漣

泣いたっていい
怒ったっていい
それが私を
強くしていくのだから
感情があることは
生きている証だ
今しかない時を大切に
今日も、これから
人生の一步を
踏み出していく

白河市立東北中学校 二年 大谷 瑠花

私は元々産まれないはずの命だった
母は元々産めないはずの体だった
母はそう話した
私も弟も元々は産まれるはずのなかった命
母と父に感謝したい
今日も明日も精一杯生きていたい

福島県立白河実業高等学校 二年 高野 桃花

十年ぶりに会ったおばあちゃんは狭い箱の中にいた。
私が声を掛けても、返ってくることはない返事。
私が触っても、変わらず冷たいままの手。
もう一度だけ名前を呼びたかった、呼んで欲しかった。
最後にもう一度だけ。

福島県立白河実業高等学校 三年 薄井 慎吾

文字での会話
最近が増えていくけど
ありがとうが届いても
感情は届いてくれない
声で会話をすれば
相手の思いが届いて
達成感、満足感になる
愛情も同様であり
声こそが愛や幸せに
必要なかもしれない



『いのちの詩・愛の詩』入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

二年 長谷部柚衣
三年 片平羽那乃

二本松市立二本松北小学校

六年 鹿又 笑夏

郡山市立薫小学校

二年 溝井梨津乃

郡山市立富田東小学校

一年 宗形 愛彩
四年 水野谷漣珠
五年 松崎 太希
五年 根本 毘那
五年 柳沼 亮生
六年 西本 夏海
六年 林 咲空
六年 佐々木日万莉

須賀川市立阿武隈小学校

六年 遠藤かのん

須賀川市立柏城小学校

四年 尾形 颯太
四年 石井 葵彩
四年 佐久間翔大
四年 菅野 愛莉

石川町立野木沢小学校

五年 二瓶 沙羅

玉川村立玉川第一小学校

四年 飯田 來久

昭和村立昭和小学校

六年 工 遊理

相馬市立飯豊小学校

一年 小谷 穂花

相馬市立日立木小学校

五年 岡田 優月

福島市立福島第一中学校

二年 吉田 朱利
三年 浅野 真歩

白河市立東北中学校

一年 柳沼優樹奈
二年 平山 千翔
二年 吉成 彩瑛

福島県立白河実業高等学校

一年 鎌田 涼世
三年 菊池 優花
三年 有賀 陽翔



一〇〇文字提案

「わたしにできるボランティア」



「わたしにできる
ボランティア」

優秀賞

二本松市立二本松北小学校

五年 大友 咲歩

須賀川市立柏城小学校

四年 三瓶 陽人

学校法人松韻学園福島高等学校

一年 佐藤 美輝



「わたしにできるボランティア」優秀賞

二本松市立二本松北小学校 五年 大友 咲歩

学校でJRC委員会に入った。世界の子ども達にポリオワクチンを届けるために、ペットボトルキャップを集めて寄付している。私たちの活動は世界とつながっている。私は、多くの人に呼びかけて集めたい。

須賀川市立柏城小学校 四年 三瓶 陽人

台風十九号の時、県内の多くの所で、床上浸水がありました。ぼくは両親と一緒に被害にあった方の家に行き、ほうきなどで水や泥をかき出す手伝いをしました。家の人達からとても喜ばれ、助け合う心が大切だと思いました。

学校法人松韻学園福島高等学校 一年 佐藤 美輝

募金活動をしていると、箱がだんだん重くなってくる。それは、お金だけではなく、寄付をしてくれた人の思いもその重さになるから。その思いをたくさんの人に届けるために、私は今日も募金活動をする。



「わたしにできる ボランティア」

佳作

福島市立福島第一小学校

三年 角田ひかり

四年 富山 尊広

五年 海野 弥生

桑折町立睦合小学校

六年 岡崎 陽莉

六年 佐藤 柊

六年 齊藤 優空

二本松市立二本松北小学校

一年 渡邊 榮斗

五年 武藤 柊

二本松市立塩沢小学校

六年 佐藤 渚美

郡山市立富田東小学校

四年 大木 駿

五年 吉田ひらり

鏡石町立第一小学校

三年 角田 遥馬

須賀川市立義務教育学校稲田学園

五年 横田蒼太郎

玉川村立玉川第一小学校

三年 溝井 紅介

四年 矢吹日奈理

五年 須藤 和真

昭和村立昭和小学校

六年 長谷川美桜

相馬市立飯豊小学校

一年 齊藤 千華

一年 遠藤 楓月

相馬市立日立木小学校

四年 大和田晃聖

福島市立福島第一中学校

一年 菅野 結衣

一年 柴田 晴希

白河市立東北中学校

二年 辺見 宙斗

西郷村立川谷中学校

一年 名和 美波

福島県立白河実業高等学校

三年 富田 琴乃

三年 奥山 暖斗

三年 渡辺 龍雅

三年 鈴木 美紅



『わたしにできるボランティア』佳作

福島市立福島第一小学校 三年 角田ひかり

そうじの時間わたしは、よごれを見つけた。それをわたしは
ふいてみた。するときれいなゆかにかわった。気づき、考え、
じっこうすることができていた。みんながきれいにつかえるよ
うに毎日ふきつづけた。

福島市立福島第一小学校 五年 海野 弥生

学校の帰り、道ばたにゴミが落ちていた。
私はその日から、友達といっしょにゴミを拾って持ち帰るこ
とにした。

ゴミを拾うと通学路はきれいになるし、私の気持ちもスツキ
り。町の人も喜んでくれる。

福島市立福島第一小学校 四年 富山 尊広

母が冬に庭の畑に生ゴミを入れていた。土にかえすと堆肥に
なると言っていたけれど本当かな。夏、畑に夏野菜が元気に実
っている。

母が行う生ゴミリサイクル。地球にやさしいエコ活動。ばく
も積極的に手伝いたい。

桑折町立睦合小学校 六年 岡崎 陽莉

使用ずみの切手を集めて車いすに。切手が車いすになるなん
て、初めて知った。「たくさん集めるぞ。」と決心した。私は家
中の切手を集めた。「この切手が車いすになり、だれかが笑顔
になりますように。」と願いをこめて。

桑折町立睦合小学校 六年 佐藤 柊

SDGsの十七の目標を知った。ぼくは、今まで全然意識していなかった。でも、ぼくにもできることがたくさんある。さっそく節水した。節電もした。毎日残さず食べた。次は、もっとごみを減らそう。

二本松市立二本松北小学校 一年 渡邊 榮斗

ぼくのじまんは、おおきなこえです。このおおきなこえをぶきに、あさのあいさつやがっこうせいかなどで、みんなにこえをかけています。このぶきをもつてきょうもみんなをげんきにしたい。

桑折町立睦合小学校 六年 齊藤 優空

学校から帰る時、目の前にペットボトルが落ちていた。お茶が入っていてきたなかったから拾わなかった。ずっと心がもやもやしていた。さらに歩いたらまた、ゴミが落ちていた。よし拾おうと思って拾った。心がすっきりした。

二本松市立二本松北小学校 五年 武藤 柊

地いきのごみ拾いに参加した。道ばたに落ちているごみが多いことが気になっていったからだ。ごみ拾いをしていくと、なんだかすっきりした。この場をきれいにしたら、笑顔になれるよ。うなきがした。

二本松市立塩沢小学校 六年 佐藤 渚美

郡山市立富田東小学校 五年 吉田ひらり

私は髪の毛をのばしている。長い方が好きだから。
病気で髪の毛を失ってしまった子供がいると聞いて、はっと
した。私ができることは何か、

「ヘアドネーション」
もう少し髪の毛がのびたら切ろうかな。

郡山市立富田東小学校 四年 大木 駿

鏡石町立第一小学校 三年 角田 遥馬

ぼくの好きな湖。魚がゴミを食べてしまったら、死んでしま
うから小さなゴミもぼくがひろう。ずっときれいな湖であって
ほしい。ずっときれいな湖で釣りがしたい。だから小さいこと
からはじめよう。

コンビニ、スーパーのレジにあるぼきん箱。こまっている人
を助けたい。今年からはじめたぼくのやりたいこと。それが十
円ぼきん。
お店の人からの「ありがとう」がうれしい。ぼくの十円、だ
れかの助けになれば良いな。

須賀川市立義務教育学校稲田学園 五年 横田蒼太郎

去年の先輩が始めたアフガニスタンにランドセルを送る活動。ぼくらは六年生のサポートで「稲田っ子ドライトマト」を作るためのトマトを育てている。先輩達の思いを受けついで、ぼくもがんばる。これが平和への一歩だ。

玉川村立玉川第一小学校 四年 矢吹日奈理

テレビでヘアドネーションという言葉を知りました。わたしのかみの毛でつらい思いをしている友達がえ顔になってほしいと思い、わたしもやってみました。この気持ちもかみの毛といっしょにとどいてほしいと思います。

玉川村立玉川第一小学校 三年 溝井 紅介

登校中、たくさんさんのゴミをはこんでいるおばあさんがいた。「手伝いますか。」とよく。「心ばいしてくれてありがとう。でも大じょうぶだよ。」とにっこり顔のおばあさん。少しの勇気で気持ちのよい朝がはじまった。

玉川村立玉川第一小学校 五年 須藤 和真

僕の家は国道と村道が交わる十字路に面しています。車も人もたくさん通るので、歩道の小石やゴミ拾いをします。皆が気持ち良く歩けるようにすみずみまで見ます。キレイな歩道を見ると気持ちがスッキリしてうれしいです。

昭和村立昭和小学校 六年 長谷川美桜

困っている人に寄り添い、助ける。悩んでいる人の相談に乗る。思いやりの心と勇気があれば、一言でも心を救えるはずだ。わたしにできるボランティア、「こころのボランティア」。

相馬市立飯豊小学校 一年 遠藤 楓月

ぼくはあったひとたちにごあいさつ。
「おはようございます。」
「こんにちは。」
「さようなら。」
「こんばんは。」
こえをかけてみんなげんき。
ぼくはみんなを一日ステキにしていきたい。
こころがハッピーだ。

相馬市立飯豊小学校 一年 齊藤 千華

おさあらい、おそうじ、おりょうり、おふろスイッチがかり、わたしがおてつだいをすると、ママもばあもとてほめてくれます。ひとのやくにたてるってたのしいなとおもいました。

相馬市立日立木小学校 四年 大和田晃聖

三月十六日、夜中の大きな地震。怖かった。その後は停電と断水。ぼくは水くみを手伝った。「助かるよ。」と言ってもらえた。水の大切さを知った。災害時、ぼくのできる事は限られているけど、少しでも誰かの役に立ちたいな。

福島市立福島第一中学校 一年 菅野 結衣

お母さんが、ヘアードネーションをして帰って来ました。私と妹はヘアードネーションの説明を受けると「すぐにやりたい。」と言いました。翌日、私たちは美容室に行き、長い髪とお別れしました。三十センチ三人分の髪が、頭髪を失った子供に早く寄付されることを願いながら。

福島市立福島第一中学校 一年 柴田 晴希

復旧とは、前の状態を取り戻すことだ。
復興とは、前よりも良くすることだ。
私たちの福島は、復興できていると思う。それは支えてくれた人がいたからだ。私も、支えられた一人として、次は誰かを支える人になる。

白河市立東北中学校 二年 辺見 宙斗

大自然。
動物たちがこちらを見ている。
ごみを捨てないでとこっちを見ている。
怒っている。自然をけがすなと植物が怒っている。
命がきえている。ごみで命がきえている。
拾おう。一つでも。

西郷村立川谷中学校 一年 名和 美波

本当に必要なボランティアは何でしょうか。お母さんが言っていたボランティアは、困っている人が本当に手伝ってほしいことをやることです。まずは、困っている人が本当に手伝ってほしいことは何か考えてみませんか。

福島県立白河実業高等学校 三年 富田 琴乃

私は、最近子ども食堂のボランティアに参加しました。十分な食事ができていない子が多くいると聞き、複雑な気持ちになりました。このような格差をなくそうと強く願い、自ら行動をしていこうと思います。

福島県立白河実業高等学校 三年 渡辺 龍雅

私にできるボランティアは、今部活で行っている空飛ぶ車いです。空飛ぶ車いすは、学校にある車いすを修理し外国に送る活動です。私が修理した車いすが誰か困っている人に使ってもらえたら嬉しいです。

福島県立白河実業高等学校 三年 奥山 暖斗

誰かが捨てたゴミはやがて海へ辿り着き、生き物を傷付けている。このことを知ってから犬の散歩をしながらゴミを拾うことが私の休日の日課となっています。小さなことから一歩ずつ。これが私のボランティアです。

福島県立白河実業高等学校 三年 鈴木 美紅

子ども食堂のボランティアで、子ども一人ひとりを理解し接することが子ども達の笑顔に繋がっていると知りました。私は子どもを笑顔にできる幼稚園教諭を目指し、笑顔をモットーにボランティアを続けようと思います。

「わたしにできるボランティア」入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

五年 清野 陽菜

桑折町立睦合小学校

五年 佐藤 翔空

六年 佐藤 百奏

六年 半沢 明

二本松市立二本松北小学校

一年 渡辺 彩禾

四年 福馬 千洋

四年 小室 優牙

五年 新長 彪月

五年 渡辺 凜

郡山市立富田東小学校

二年 佐藤 瑠愛

三年 浜田 輝士

三年 藤島 怜奈

須賀川市立小塩江小学校

五年 吉田 咲嬉

須賀川市立阿武隈小学校

五年 佐藤 莉愛

五年 山田 徠喜

五年 山田 芽生

六年 齋藤 凌斗

六年 二階堂心優

須賀川市立仁井田小学校

五年 村上 彰洋

鏡石町立第一小学校

六年 横地凜太郎

六年 有賀 和夢

須賀川市立義務教育学校稲田学園

五年 布施 晴翔

五年 有馬 奈南

五年 吉成 舞央

白河市立表郷小学校

六年 高木 初日

棚倉町立近津小学校

六年 鈴木 悠斗

猪苗代町立緑小学校

六年 村澤 寿々

喜多方市立堂島小学校

五年 渡部 明梨

相馬市立八幡小学校

五年 岩佐 優

相馬市立中村第二小学校

三年 舘岡 里歩

三年 草野 陸斗

五年 佐藤かれん

六年 長井龍之介

六年 加藤 衣織

相馬市立飯豊小学校

二年 齋藤 大朗

三年 高玉琥羽牙

六年 唯野 愛夏

六年 杉目 朱莉

相馬市立日立木小学校

一年 門馬 早希

一年 西 真奈美

三年 熊上 杏

六年 桑折 菜々

南相馬市立八沢小学校

四年 大畑 飛翔

南相馬市立上真野小学校

三年 永林 美紅

福島市立福島第一中学校

一年 加藤 愛莉

一年 半澤 心優

一年 渡邊 小都

須賀川市立第三中学校

二年 佐藤 湧月

二年 吉田 梓珂

二年 室井 絆咲

三年 五十嵐 鈴

白河市立東北中学校

一年 村上 瑠空

二年 吉田 秀翔

学校法人松韻学園福島高等学校

一年 中村 瑠苒

福島県立白河実業高等学校

一年 遠藤 恭我

一年 山田 愛綸

三年 井上 佳祐

三年 羽賀 浩太

三年 小山田志穂

三年 吉田 准

三年 大橋 真弥

三年 近藤あゆみ



一〇〇文字提案

「わたしのふるさと」



「わたしの
ふるさと」

優秀賞

須賀川市立義務教育学校稲田学園

五年 小針 絵莉

石川町立野木沢小学校

五年 佐藤 歩

玉川村立玉川第一小学校

六年 田子 遙真

二本松市立二本松第一中学校

一年 根本 心愛



「わたしのふるさと」優秀賞

須賀川市立義務教育学校稲田学園 五年 小針 絵莉

いわきで語り部さんの話を聞いた。海を見ながら聞いた。震災の年は、私達はまだお母さんのおなかの中にいた。語り部さんからの宿題は「命の守り方を一生かけて考えて。」だった。あの日の海も語り部さんの声も、私はずっと覚えていたい。

石川町立野木沢小学校 五年 佐藤 歩

石川町は自然豊かだ。
家は田んぼに囲まれて
夏は緑のじゅうたん。
秋は黄金色の穂が実る。
冬は雪で一面銀世界。
四季によって変化する。
僕はこの風景が好きだ。
父の次にはこの僕が、
この景色を守っていく。

玉川村立玉川第一小学校 六年 田子 遙真

ぼくが収かくしたきゅうり。その場で
ほおばる。

「うまい!!」

玉川村の自然の恵み、そのものだ。大自
然で育った野菜は、どれもうますぎる。

都会で暮らす兄たちに、この味を届け
たい。

二本松市立二本松第一中学校 一年 根本 心愛

夜になると、たくさんのちようちんに
火がつく。朝とはまったく違う。人もた
くさん増えて、太鼓の音もより響いてい
るように聞こえる。暗い夜が屋台とちよ
うちんの明かりで明るくなる。私は夜の
この瞬間が好き。

「わたしの
ふるさと」

佳
作

福島市立福島第一小学校

二年 穴戸結衣菜

福島市立平石小学校

三年 齋藤 一花

桑折町立睦合小学校

六年 地切 絢人

二本松市立二本松北小学校

二年 平舘 篤

四年 柳沼 大輝

五年 中村 透真

六年 菅野彩歩希

六年 菅野 世漣

郡山市立薫小学校

四年 佐藤 芽依

郡山市立富田東小学校

三年 山田莉里太

五年 岩見 優

鏡石町立第一小学校

六年 福田 光里

六年 白澤 花暖

須賀川市立義務教育学校稲田学園

二年 岩谷 知佳

喜多方市立堂島小学校

五年 沖坂 美咲

五年 加藤 るか

相馬市立中村第二小学校

六年 今野 遥斗

相馬市立飯豊小学校

五年 高玉莉璃亜

南相馬市立上真野小学校

一年 愛澤 果純

福島市立福島第一中学校

二年 北 葵衣

二本松市立二本松第一中学校

一年 斎藤莉央奈

一年 加藤 和奏

一年 三村 光昼

一年 後藤隆之介

福島県立白河実業高等学校

一年 我妻 颯真

福島県立平支援学校 高等部

三年 洲崎 亜弥

『わたしのふるさと』佳作

福島市立福島第一小学校 二年 穴戸結衣菜

「ふるさとってなあに。」

「うまれそだったばしょのことよ。」

わたしのふるさとはここ、ふくしま。

くだもの、おんせん、おこめに大しぜん。

大きがいっぱいつまったわたしのふるさと、ここ、ふくしま。

福島市立平石小学校 三年 齋藤 一花

わたしのふるさと南あいづ。冬はさむかった。けれど心はいつもぽかぽかだった。お母さん、お父さん、おねえちゃん、わたしの気もちを温かくしてくれて。お母さんわたしを生んでくれてありがとう。ありがとう。

桑折町立陸合小学校 六年 地切 絢人

ぼくの住んでいる町は最高の町だ。春はピーチロード。桃の花が咲きみだれる。夏はホタル。やさしく辺りを照らす。秋はりんご。みつがたっぷり。冬は雪景色。外は一面ミルク色。次は、どんな景色が見れるかな？

二本松市立二本松北小学校 二年 平舘 篤

ぼくのふるさとには三七〇年のれきしあるちようちんまつりがあります。ぼくは、たいこをたたく小若としてさんかしています。れきしあるかっこいいおまつりなので、大人になってもつづけてせかい中の人に見てほしいです。

二本松市立二本松北小学校 四年 柳沼 大輝

ぼくのふるさとの二本松市には、笑顔がたくさんあります。ぼくの周りの人達は、いつも笑顔で接してくれます。笑顔だとぼくも笑顔になるし、元気も出てきます。だから、ぼくも笑顔で接していこうと思います。

二本松市立二本松北小学校 六年 菅野彩歩希

私がすんでいる地域には、少年隊という悲しい歴史があり、十二才から十七才の少年が争いに参加した。ぼくたちは、わかくしてなくなった人たちの思いを受けついで、命を大切に生きていきたいと思いました。

二本松市立二本松北小学校 五年 中村 透真

ぼくの町は、都会でもない、田舎でもないどこにでもありそうな町。この町で、ぼくが一番好きなのは、はんこ屋さん。なぜなら、おじちゃんがとてもやさしいからだ。ぼくは、これからもこの町を大切にしていきたい。

二本松市立二本松北小学校 六年 菅野 世漣

ぼくはふるさが好きだ。「ただいま」と言えば「おかえり」と言ってくれて、「行ってきます」と言えば温かく「行ってらっしゃい」と言ってくれる人がある。温かくぼくをまってくれる家族みんなが大好きだ。

郡山市立薫小学校 四年 佐藤 芽依

おじいちゃんとおばあちゃんが住んでいた町に初めて行った
もうおうちはない
震災が変えたふるさと
潮の香りで思い出す景色
ここもわたしのふるさとなのかな

郡山市立富田東小学校 三年 山田莉里太

お母さんのふるさとは、ぼくが生まれる前のじしんでなくな
ってしまった。お母さんは、「ふるさと」が今でも忘れられな
いし大すきなところだと言った。
ぼくの「ふるさと」もそう思えるところにした。

郡山市立富田東小学校 五年 岩見 優

ぼくのふるさとは、空気おいしい、水おいしい、この地
で育った食べ物おいしい。そして、ぼくは、この地に伝わる
芸能文化の音路三匹獅子を学んでいます。ぼくのふるさとの芸
能文化を絶やさないために。

鏡石町立第一小学校 六年 福田 光里

私の将来の夢は看護師になることです。なりたいと思ったき
っかけはいくつかありますが、その一つは「自分のふる里に光
を照らしたいから」です。私は将来、お世話になったふる里に
看護師になって恩返しをしたいです。

鏡石町立第一小学校 六年 白澤 花暖

喜多方市立堂島小学校 五年 沖坂 美咲

私のふるさと

鏡石町

県で一番小さいけれど

とてもすてきだ

町中にひびく

まきばの朝

日本最古の

岩瀬牧場

小さくても

すてきはたくさん鏡石

須賀川市立義務教育学校稲田学園 二年 岩谷 知佳

喜多方市立堂島小学校 五年 加藤 るか

歩いている時に、知らない人でもあいさつをしてくれます。

わたしは、それがとてもうれしくて、こころの中がえがおになります。いな田のいいところだなあと 생각합니다。わたしも、たくさんあいさつをして、えがおいっぱいのがいな田にしたいです。

わたしのふるさと福島県。震災に負けない強い心を持っている。何度転んでも、あきらめないで、ゆっくりでもいいから歩いていこう。そして、わたしたちが経験してきたことをくり返し伝えていこう。それがわたしの役割だ。

わたしは秋になると田んぼに行く。たくさんのがねが金色に光っている。おじいちゃんとお父さんで作ったお米。今年もたくさんしゅうかくできそう。バッターもトンボもよろこんでいる。大きくたくさん育ったねって。

相馬市立中村第二小学校 六年 今野 遥斗

ぼくのふるさと相馬。港に行くとき魚や海の良いかおり。ぼくのふるさと相馬は、勇気をくれる、元気をくれる、はげましてくれる。そして、自然豊かで毎日安心して暮らすことができる。来てほしい、ぼくのふるさと相馬。

南相馬市立上真野小学校 一年 愛澤 果純

やまとかわ、うみ。
しぜんがいっぱい。
やせいのどうぶつたちもいっぱい。
そこにくらすひとはみんなえがお。
かおをあわせると、こえをかけてくれる。
みまもられている。
みまもるよ、わたしも。

相馬市立飯豊小学校 五年 高玉莉璃亜

地震があったり、感染症が拡大したり、不安な日を過ごしたこともあった。三年ぶりに開さいされた相馬盆踊り。夜空にかがやく花火に、皆の歓声とあふれる笑顔。私の住んでる町にあふれた笑顔を忘れないでいたいと思った。

福島市立福島第一中学校 二年 北 葵衣

私は福島が好きです。特に登下校で歩いたり自転車でかけぬけたりするのが好きです。吾妻山やきれいな夕焼け、いろんな季節の姿を見ることができからです。地域の祭りも大好きです。今年は参加できるといいです。大好きなふるさとをずっと大事にしていきたいです。

二本松市立二本松第一中学校 一年 斎藤莉央奈

私のふるさとは、鬼婆が居た。大切な姫を守るために、自分の娘を殺してしまった。大切な人を助けるために大切な人を犠牲にしてしまった鬼婆は、一見、怖そうだけど悲しみに溢れた私達と同じ人間なのだった。

二本松市立二本松第一中学校 一年 三村 光昼

赤・ピンク・オレンジ・紫……。私がふと空を見上げると、毎回私に表情を変えて見せてくれる、ふるさとの夕日。安達太良山から光差すその夕日は、私と地域のみんなをその色に染めてくれる。そんなふるさが大好きだ。

二本松市立二本松第一中学校 一年 加藤 和奏

私達自慢の二本松少年隊。私と歳の差のかわらない少年達が二本松を守るため勇ましく戦った。強い郷土への思い、戦いに向かう勇気、それぞれの歴史を語り伝えていきたい。二本松少年隊が守った二本松をうけつぎたい。

二本松市立二本松第一中学校 一年 後藤隆之介

僕のふるさとして伝統の提灯祭り。みんなが楽しんでいる裏でもくもくと提灯を作る職人達。そのがんばっている姿を見ると感謝があふれてくる。そんな職人達のすばらしい伝統に囲まれてこれからも生きていこうと思う。

福島県立白河実業高等学校 一年 我妻 颯真

東日本大震災から約十年が過ぎた。震災がおきた時より風評被害などがなくなった。これは地域の皆が復興に協力し、諦めずに頑張ったからだろう。そんな人達がいる「ふるさと」に生まれてこられて僕は誇りに思う。

福島県立平支援学校 高等部 三年 洲崎 亜弥

私は、学校が少し怖いという思いがありました。でも高校に入って三年間かよい、学校は楽しい所なんだ、と思いました。みんなやさしくてかわいくて私はこの学校が大好きになりました。いつまでも大切な場所です。



『わたしのふるさと』入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

二年 菅谷 健人

三年 菅谷 太一

五年 佐藤 大泰

五年 田村 優磨

福島市立平石小学校

五年 横山 康太

二本松市立二本松北小学校

一年 遊佐 羽菜

五年 石川仁衣菜

五年 村上 昂

六年 壺屋 太陽

郡山市立富田東小学校

五年 高木いろは

六年 榊 稀乃子

須賀川市立阿武隈小学校

五年 橋本 莉々

五年 阿久津愛美

須賀川市立仁井田小学校

五年 曲山 陽希

須賀川市立柏城小学校

四年 石井 心絆

鏡石町立第一小学校

一年 吉田 葵

石川町立野木沢小学校

六年 曲山 恵太

会津若松市立永和小学校

六年 加藤 愛莉

猪苗代町立緑小学校

五年 六角 煌

相馬市立八幡小学校

六年 山野井勇介

相馬市立中村第二小学校

二年 西谷ふたば

相馬市立飯豊小学校

三年 持舘 義大

三年 小谷 奏介

四年 佐藤瑠輝也

五年 佐藤 誉

六年 寺島 隼矢

相馬市立日立木小学校

三年 池部 綾人

福島市立福島第一中学校

二年 片平恵瑠奈

二本松市立二本松第一中学校

一年 佐々木樹心

一年 徳田 健晨

一年 水田 大河

一年 渡邊 愛土

一年 橋本 心音

一年 桑原 心紅

一年 保住 優伍

一年 恩田 琉月

一年 手塚 稜太

白河市立東北中学校

一年 鈴木 萌生

二年 長久保汐李

福島県立白河実業高等学校

一年 石川 姫奈

一年 陳野舞麗愛

三年 新屋 朝陽

三年 芳賀 俊介

一〇〇文字提案

「わたしが感動したことばやできごと」



「わたしが感動した
ことばやできごと」

優秀賞

福島市立福島第一小学校

三年 紺野 寧奈

二本松市立二本松北小学校

一年 遠藤 友輝

郡山市立富田東小学校

一年 花岡 蜜羽

白河市立東北中学校

三年 有賀 暖南

福島県立白河実業高等学校

三年 吉田 朱莉



『わたしが感動したことばやできごと』優秀賞

福島市立福島第一小学校 三年 紺野 寧奈

ピアノ、バレエ、英語に宿題。

まけそうなわたし。

「がんばって！」と、お母さん。

なきそうなわたし。

「そんなにがんばらないで。」と、おばあ

ちゃん。

がんばるわたし。

二本松市立二本松北小学校 一年 遠藤 友輝

らんどせるがおもい。

かたがいたいといったら、おとうとがか

たをもんでくれた。

ねこのふみふみみたいでくすぐりたい。

てがあたたかかった。

ぼくのこころもあたたかくなった。

郡山市立富田東小学校 一年 花岡 蜜羽

うちのげんちゃんは、三さいなのにな
だしやべれない。でも、「みっちゃんて
だれ？」ってきくと、ちゃんとわたしを
ゆびでさす。げんちゃんはしやべれない
けど、ちゃんとおねえちゃんをわかって
いる。なんかうれしいな。

白河市立東北中学校 三年 有賀 暖南

母の言葉。私がかけられたどんな言葉
よりも私を救ってくれた。
「最初から自信がある人なんていない。
何度も失敗と成功を繰り返して、自信を
持てるようになるんだよ。」
今の失敗は無駄ではない。全て私のた
めの失敗だったのだから。

福島県立白河実業高等学校 三年 吉田 朱莉

これは保育体験中の出来事だ。私が慣れない環境で緊張の中、急に大きめの地震が起きた。慌てず先生方は子供に声をかけ続けていた。

「大丈夫だよ。」

魔法の言葉のように、皆が落ち着きを取り戻す。あ、私の目指す未来だ。



「わたしが感動した
ことばやできごと」

佳
作

福島市立福島第一小学校

一年 高橋 佳楓

四年 国分 大士

福島市立福島第三小学校

四年 渡邊 陽斗

桑折町立睦合小学校

六年 穂積恵未名

六年 木村 悠

郡山市立富田東小学校

三年 下長野結楓

須賀川市立阿武隈小学校

六年 井上 真悠

須賀川市立柏城小学校

四年 小林 彩葉

須賀川市立義務教育学校稲田学園

四年 渡辺 尋久

五年 深谷 歩生

白河市立表郷小学校

二年 緑川 蒼希

相馬市立中村第二小学校

五年 鈴木 陽翔

相馬市立飯豊小学校

五年 杉平 恋菜

福島市立福島第一中学校

一年 加藤 暖貴

白河市立東北中学校

一年 鈴木 そよ

二年 運天沙也圭

福島県立白河実業高等学校

一年 鈴木 梨生



『わたしが感動したことばやできごと』佳作

福島市立福島第一小学校 一年 高橋 佳楓

わたしは、ありがとう、どういたしましてがだいすき。
ありがとうといわれると、こころがうれしくなる。どういた
しましてというときは、やさしくしてよかったなとおもう。
だいじなことだよ。

福島市立福島第一小学校 四年 国分 大士

「行ってらっしゃーい。気をつけてね。」
毎朝、お母さんは元気いっぱいニコニコ顔でよくに言う。ぼく
の元気パワーは満たんた。学校に行ったら今度はぼくがニコニ
コ元気に「おはよう」って言うよ。元気パワーがつながるよ。

福島市立福島第三小学校 四年 渡邊 陽斗

「がんばったね！」
サッカーの試合で勝っても負けてもお父さんが言ってくれる
言葉だ。
うまくいかなくて落ち込んでいるときも、声をかけてくれる。
ぼくのやる気の源だ。
ぼくはもっともっと強くなれる気がする。

桑折町立睦合小学校 六年 穂積恵未名

「花にも命がある」、生け花の先生の言葉。花は、私たちに生
けられるために、この世に咲いた。だから、花を大切に生けて、
最後まででいいねいに扱わなければならない。私は、この言葉を
かみしめて花を大切にしたい。

桑折町立睦合小学校 六年 木村 悠

悲しみに慣れすぎたからか、自分の家がなくなっても何も感じなかった…。ウクライナから日本に逃れてきた高校生の言葉。戦争は家も心も破壊してしまう。家族や友達といられることは、一番幸せなことなのだ。

「今日はね。」
毎日妹が夜教えてくれること。友達の話をとくさん話してくれる。そのおかげで私もたくさん話す。妹と楽しい雑談会。毎日毎日楽しく、また、
「今日はね。」

郡山市立富田東小学校 三年 下長野結楓

わたしは、毎日ねる前にお母さんから、

「大好きだよ。」

と言ってもらって、ぎゅっとだきしめてもらいます。どんなにおこられても、さいごはその言葉を言ってもらいます。

朝には、元気いっぱいになります。

須賀川市立阿武隈小学校 六年 井上 真悠

わたしは、チアを通して笑顔と元気をとどける活動をしている。しせつでおどった時に、なみだを流して「ありがとう」と伝えてくれた、おばあさんの姿がわすれられない。今でも力をくれる思いをありがとう。

須賀川市立柏城小学校 四年 小林 彩葉

須賀川市立義務教育学校稲田学園 四年 渡辺 尋久

僕の母はよく

「人は鏡だよ。」

と言います。僕はその言葉の意味がよく分かりません。でも友達が笑うと僕も笑うし、友達が悲しいと僕も悲しいし、僕が怒ると友達も怒る。「鏡」の意味が分かった気がします。

白河市立表郷小学校 二年 緑川 蒼希

ありがとうとごめんねは、みんながえがおになれるふしぎなじゅもん。けんかをしてごめんね、なかなかおり。ありがとう、うれしい気持ち。ありがとう、ごめんねで、みんながえがおでいっぱいになればうれしいね。

須賀川市立義務教育学校稲田学園 五年 深谷 歩生

卵からメダカの赤ちゃんが生まれた。心がキュッとうれしくなった。こんなに小さくても命だ。生まれることもできない子もいるのに生まれてきたことに感動した。私の命も一つしかない。だから自分の命を大切にする。

相馬市立中村第二小学校 五年 鈴木 陽翔

初めて登ったアルプスの頂上。今までで一番空が近くにあった。吸い込まれそうな青い空と飛び乗れそうな白い雲。疲労よりも達成感で一杯になった。そんな景色やみんな食べたお昼ご飯、はげまし合って登った時間、その全てがこの夏のぼくの宝物になった。

相馬市立飯豊小学校 五年 杉平 恋葉

初めてしゃべった。
わたしの妹。

初めて歩いた。
わたしの妹。

初めてわたしの名前を呼んだ。
わたしの妹。
とても感動した。

福島市立福島第一中学校 一年 加藤 暖貴

僕には、心がぽつと温かくなることがある。

「助けてもらった時」

「みんなで笑った時」

「人を助けた時」

一番温かくなる時は、人から「ありがとう」って言われた時なんだ。

白河市立東北中学校 一年 鈴木 そよ

「出来るまでやれば出来る。」何をやっても上手く出来ない。あきらめている心に静かにひびき、光る。私を救ってくれる大事な言葉。何度も何度も挑戦することを教えてくれた言葉。今日も新しい自分になるために挑戦する。

白河市立東北中学校 二年 運天沙也圭

「うちは幸せだね。」

私のお父さんは何かあるたびにそう言う。普段の当たり前がそうじゃない人もいる。おいしいご飯を食べて、毎日学校にも行けて、毎日元気で暮らせることが私にとって最高の幸せだ。

福島県立白河実業高等学校 一年 鈴木 梨生

曾祖母は今、病院で寝たきりだ。コロナ禍のため、直接会うことはできないため、ビデオ通話で話をした。曾祖母の方が大変な思いをしているはずなのに

「学校頑張ってね。」
と優しい一言に、思わず泣いてしまった。



「わたしが感動したことばやできごと」入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

二年 富山 愛彩
四年 宇野 結翔

福島市立平石小学校

三年 武田優之助

桑折町立睦合小学校

五年 佐藤 蓮

二本松市立二本松北小学校

一年 橋本 陸
一年 斎藤 紬
一年 梅原 美優
四年 武田佳奈枝
四年 安田 ゆめ
五年 若島 克真
五年 松本 優
六年 齋藤 凜恋

郡山市立富田東小学校

二年 伊藤 心愛
四年 吉田 千紗
五年 根本 結生
五年 伊藤 松菜
六年 遠藤 愛佳

須賀川市立阿武隈小学校

五年 橋本 希音
六年 渡邊 結愛
六年 西間木美來

鏡石町立第一小学校

三年 菊地 心春

須賀川市立義務教育学校稲田学園

五年 設樂 友希
五年 橋本麗緒奈
五年 本田 想護

白河市立表郷小学校

六年 佐藤 心彩

相馬市立八幡小学校

四年 上遠野 煌

相馬市立中村第二小学校

六年 中谷 伊織
六年 佐藤 菜美

相馬市立飯豊小学校

五年 山下 恭叶

相馬市立日立木小学校

一年 船柳 心希
一年 松本 麗愛
二年 小丸 航大
三年 臺内 葵
六年 亀岩 未愛

南相馬市立八沢小学校

四年 岡本 玲奈

南相馬市立上真野小学校

四年 遠藤 優香
六年 伏見 拓弥

福島市立福島第一中学校

一年 二瓶 琉愛
二年 菅野 菜月

須賀川市立第三中学校

三年 山口 芽桜

白河市立東北中学校

一年 今井 飛河
二年 荒井 珈乃
三年 佐野 伶
三年 緑川 月渚

南相馬市立鹿島中学校

二年 小野田海音

学校法人松韻学園福島高等学校

一年 加藤 理一

福島県立白河実業高等学校

一年 菊池 唯斗
一年 薄 凌駕
三年 緑川 拓斗
三年 野崎 美羽

作品応募校

鏡石町立第一小学校	須賀川市立第一小学校	福島市立福島第一小学校
相馬市立日立木小学校	須賀川市立義務教育学校稲田学園	福島市立福島第三小学校
南相馬市立八沢小学校	石川町立野木沢小学校	福島市立平石小学校
南相馬市立上真野小学校	玉川村立玉川第一小学校	桑折町立睦合小学校
いわき市立高坂小学校	平田村立蓬田小学校	二本松市立二本松北小学校
福島市立福島第一中学校	白河市立表郷小学校	二本松市立塩沢小学校
二本松市立二本松第一中学校	矢吹町立善郷小学校	郡山市立薫小学校
須賀川市立第三中学校	棚倉町立近津小学校	郡山市立富田東小学校
石川町立石川中学校	会津若松市立永和小学校	郡山市立富田西小学校
白河市立東北中学校	猪苗代町立緑小学校	須賀川市立西袋第二小学校
西郷村立川谷中学校	喜多方市立堂島小学校	須賀川市立小塩江小学校
会津坂下町立坂下中学校	喜多方市立駒形小学校	須賀川市立阿武隈小学校
南相馬市立鹿島中学校	昭和村立昭和小学校	須賀川市立仁井田小学校
いわき市立四倉中学校	只見町立只見小学校	須賀川市立柏城小学校
学校法人松韻学園福島高等学校	相馬市立八幡小学校	
福島県立白河実業高等学校	相馬市立中村第二小学校	
福島県立勿来工業高等学校	相馬市立飯豊小学校	
福島県立平支援学校 高等部		

年度別応募状況

年 度	応 募 校 数				応 募 作 品 数			
	小学校	中学校	高等学校	合 計	小学校	中学校	高等学校	合 計
平成18年度	29	10	1	40	951	385	25	1,361
平成19年度	32	6	4	42	1,749	211	115	2,075
平成20年度	29	2	2	33	1,683	268	45	1,996
平成21年度	24	2	4	30	1,401	159	64	1,624
平成22年度	42	7	2	51	2,859	757	24	3,640
平成23年度	35	7	1	43	3,325	912	4	4,241
平成24年度	47	11	18	76	3,666	735	338	4,739
平成25年度	60	14	20	94	5,602	1,048	889	7,539
平成26年度	48	6	12	66	5,175	1,018	1,027	7,220
平成27年度	45	12	13	70	3,992	1,373	76	5,441
平成28年度	44	11	9	64	4,847	1,433	405	6,685
平成29年度	43	12	9	64	3,542	1,048	477	5,067
平成30年度	35	11	7	53	3,043	1,047	397	4,487
令和元年度	39	8	7	54	2,784	457	198	3,439
令和２年度	26	7	6	39	2,210	744	76	3,030
令和３年度	30	6	9	45	2,120	403	355	2,878
令和４年度	35	9	4	48	2,123	471	323	2,917

令和４年度 テーマ別応募作品数

	小学生	中学生	高校生	合 計
いのちの詩・愛の詩	431	78	52	561
わたしにできるボランティア	659	108	135	902
わたしのふるさと	520	172	67	759
わたしが感動したことばやできごと	513	113	69	695
応募総数	2,123	471	323	2,917

作品審査を終えて

今年、青少年赤十字は、誕生して一〇〇周年を迎えました。いつも相手の気持ちで考え、行動できる、ずっと変わらない「やさしいこころ」を未来につなごうをスローガンに、未来への大きな夢と希望をもって「気づいたこと」「考えたこと」「実行したこと、実行しようとしたこと」を詩や一〇〇文字に表現したメッセージにして送って下さいと作品を募集しました。

しかし、世界的にコロナウイルス感染症は収まらず、子どもたちが伸び伸びと自由に活動できない日々が相変わらず続いています。また、多くの催しが中止され、学校でも、制限された状況の中で教育活動が行われています。

世界に目を向けてみると、ロシアのウクライナ侵攻など、相変わらず、地球上で争いが続いています。さらに、世界各地で天地異変が生じ、人々に大きな災いを与えています。

十七回を迎えた今年も、そのような中で生活している子どもたちから、温かな心が表現された作品を四十八校・二千九百点余り応募していただきました。特に、小学生の参加が多く見られました。本当に嬉しい限りです。また、青少年赤十字研究推

進校の指定を受けた学校から応募が増えていることには、先生方が忙しい中で指導も大変だろうなと頭が下がる思いがします。

今年も、子どもたちの「やさしさ、あたたかさ、思いやり」の心を大切にした作品や「ひと・もの・こと」との出会いから、自分なりに考え、行動して、感じたことを表している多くの作品に触れることができました。

作品を読んでみて、読み手を引きつけるのは、作品を書く「あなた」が、そこに登場することです。つまり、体験や経験から生まれた自分の思いを伝えることです。今年度、支部長賞に選ばれた作品は、四点とも体験をおしての自分の思いが強く表されています。

例えば、「いのちの詩・愛の詩」の浅野さんが広島へ行って平和記念式典に参加し、命を大切にして欲しいと強く思ったことと、平和の鐘が鳴り響いてそのことを強く訴えていたと表したことは実体験の強みだと思います。

「私にできるボランティア」の溝井さんの、ゴミを拾ってゴミ袋がどんどん重みを増していくのと、反対に自分の心がすっきり軽やかになっていくことを対比した表現は、やり遂げた体験の現れです。

「わたしのふるさと」の仁國さんの作品では、自分が帰れる場所、しかも、心があたたくなる場所がふるさとであると表しています。私たち自身が意識しない中で、自然に感じていたことを率直に表したものだと思います。

「わたしが感動したことばやできごと」の小野寺さんの、おじいちゃんが大変な手術を受けるのは、「愛する孫の顔をずっと見ていたいから」という言葉に感動しました。また、指導者協議会会長賞を受賞した伊藤さんの、「壁を作っていたのはぼくでした」と言う気づきも、読み手を感動させるできごとと言えます。さらに、賛助奉仕団委員長賞を受賞した西田さんの、「颯爽とかける馬、風になびく旗」に、夏の相馬地方の風物詩を久しぶりに味わった感激には、ふるさとのよさを改めて感じさせられました。

最後に、今までの優秀作品を参考にするのはもちろんよいのですが、まねはダメです。前年度の優秀作品にもぜひ目を通して、子どもたちの作品が、同じような表現になっていないかどうか、もう一度読み直してみてほしいと思います。子どもたちの名誉のためにもお願いします。

結びに、作品を寄せていただいた学校、指導に関わってくだ

さった先生方、そしてたくさん作品を寄せてくれた児童・生徒の皆さんに対して、審査員一同心から感謝し、お礼申し上げます。今後とも青少年赤十字活動を身近に感じ、実践することを通して、さらにより作品が生まれることを祈っています。

令和四年十一月 二次審査会にて

審査委員長 松田 貞夫

審査にご協力いただいた皆様（敬称略）

☆ 審査委員長（福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長）

○松田 貞夫

☆ 審査委員（赤十字指導講師、青少年赤十字福島県指導者協議会地区会長、福島県青少年赤十字賛助奉仕団員）

青山 邦夫 阿部 友紀 荒川 孝子
石井 幸男 岩下 聡 鵜沼 美枝子
遠藤 寿美子 圓谷 厚子 勝倉 孝行
面川 孝子 春日 芳則 菊地 裕二
金谷 哲 管野 孝司 小 林 伸裕
児島 昌詮 後藤 さとみ 佐々木 義通
今野 滋子 今野 隆 佐藤 則之
佐藤 吉郎 鈴木 進一 鈴木 博幸
糺田 惣男 鈴木 義人 高橋 由美子
高橋 恵子 高橋 澄子 高橋 一彦
武田 幸子 館 初浩 鶴見 常夫
東條 有克 中野 喜久枝 長谷川 文之
菱沼 明美 平田 州一 星 仁子
福地 敏教 皆川 伸朔 村田 貴毅
三星 了一 山下 富夫 横山 毅
山口 彌代 吉川 和夫 渡部 貴毅
吉内 次夫

○印…二次審査員

佐藤 宏隆 岸波 庄一 石田 政幸 相澤 真理子 阿部 正明 菅野 勇一郎 小池 樹里

（日本赤十字社福島県支部）

事務局 局長
調整 監
組織 振興 課 長
組織 振興 課



未来のあなたへ、やさしさを。



青少年赤十字創設100周年